



みなみの風

【発行日】
令和8年7月14日
【発行者】学校長

《学校教育目標》 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる子の育成
学校生活における合言葉 「生き生きわくわく」と「3つの『あ』」

今週をもって夏休み前の学びを終えようとするところですが、いよいよ暑さが本格的にやってきました。先月開催された本町のあじさいまつりにも、多くの方々が来町されたようで、過去最大の観光客数だったと聞いています。「開成町＝あじさい」が定着してきたことの証かもしれません。とてもうれしいですね。

現在、個別面談を悉皆で実施しています。保護者の皆様におかれましては、ご多用の中での面談になるかと思いますが、お気を付けてお越しください。そして、4～7月の子どもたちの成長と今後の支援について共有させていただければ幸いです。今後も引き続き、よろしくお願いします。

模擬議会の体験をととして

～6年生の学びの様子が神奈川新聞とタウンニュースに掲載されました～

今回の通信もトップ面は6年生の学びの様子です。過日、6年生は、町議会及び町長さんをはじめとする町当局の指導のもと、模擬議会を体験することができました。

この学びは例年行われているのですが、町議会事務局の豊富なアイデアにより毎年バージョンアップしていて、6年生にとっても多くの学びがありました。開成町のことが大好きな本校の子どもたちが、いずれ町のために自分の資質・能力を生かして活躍してくれることが今から期待されます。



模擬議会当日の様子



自転車運転免許講習会 ～4年生は見本になろう！～

例年同様、4年生を対象に自転車運転免許講習会が開催され、過日、山神町長さんから免許証を3名が代表して受け取りました。

さて、自転車を利用されているお子さんの安全状況はいかがでしょう。調査によると、ヘルメットの着用率は7～8割にとどまっているようです。かけがえのない命を守ることは、子どもたち自身が意識すべきことですが、大人がその環境を整えることもそれ以上に大切です。子どもの交通事故は、もちろん本人が一番つらいのですが、加害側も不幸になることを忘れてはならないと強く思います。



6年生プール清掃 ～最上級生に感謝の心を！～

写真は、6月18日に6年生と教職員で行ったプール清掃後の様子です。とてもきれいになりましたが、今年も事故なく水泳(水遊び)の学びが終えられるようにしたいと思います。

今年度も、暑さのためにグラウンドや体育館での体育の授業がままならないため、7月のみならず9月も水泳学習をする予定です。とはいえ、暑さ指数が基準値を超えた場合は、水泳とはいえ中止になる場合があります。それだけ今は、体育の学びや休み時間に一定の制限があるため、以前と比べると非常に難しい状況にあります。

保護者の方々におかれましては、お子さんの体調を確認していただきますようお願いいたします。ちなみに、久しぶりに、気温が低くて中止になった日がありました。



学校のために ～地道な委員会活動～

写真は、園芸委員会の子どもたちが、プランターをきれいにしている場面です。本校は、多くの5・6年生が在籍しているため、適切な支援を考えないと一人一人の責任感がなかなかもちにくい状況にあります。よって、今年度は、子どもたちの主体的な特別活動(学級活動・クラブ活動・委員会活動・学校行事)の充実を掲げています。

写真の場面の様子を数分間眺めていたのですが、5・6年生の子どもたちは、やるべきことを確実に遂行すべく、黙々と丁寧に取り組んでいました。「すてきさん」がまた発見でき、うれしい限りです。



自分を知る ～体力テストを実施～

本校では、全児童を対象に、体力テストを行っています。近年、子どもたちの体力が下降傾向であると言われ続けており、本校も例外ではありません。いわゆるよい姿勢を保ち続けることが難しくなったり、ボールの投げ方がぎこちなかったりすることが一例として挙げられます。長昼休みを週2回にしたのも、体力向上を目指す方策の一つです。

今回の結果を分析し、今後の体力づくりの在り方を担当を中心に考えていきたいと思います。



「子育てアラカルト②0 ～『楽しさ』は与えられるもの？」

今年度の本校は、まだまだ取り組むべきことはあるかもしれませんが、子どもたちの笑顔が多く見られるといった印象があります。もちろん、友達関係に悩んだり、学習に苦戦したりといったこともあると思いますが、それでも、前向きな姿勢が多々見られ、すてきな子どもたちだと自負しています。

さて、本校のグランドデザインには「明日も行きたくなる学校」というキーワードがあります。ここで、「楽しい学校」としていないのは、学校という場所は異なる個性の集合体なので、時にはぶつかり、思うようにいかないこともあると捉えているからです。もちろん、子どもたちはそういう時は「楽しくない」と捉えることでしょう…。子どもたちにとって、「楽しい」と感じることは人それぞれです。誰かと競うことを楽しみとする子もいれば、できれば避けたいと思う子もいます。ただ、一つ言えるのは、仲間と協働(協力)して何かを成し遂げたときには、全員とは言いきれませんがほとんどの子が楽しさを感じていることも事実です。もちろん学校は、そういう場面を意図的に創造することもあります。全ての時間ではありません。そのような時、「楽しさ」を与えられるのを待つのではなく、自ら楽しさを見つけていける子を育てたいと考えようになりました。現在、各学級と委員会の代表が集って、目指すべき学校を考えていく組織として、児童代表委員会がありますが、担当教諭の熱意もあり、非常に活発な話し合いが行われています。本当の楽しさを見つけようとする子どもたちの底力を感じている今日この頃です。

